

2006年

春

どうそ 満

議員活動報告



発行責任者 道祖 満

飯塚市 鯉田2525-44

TEL 25-3280・22-9323

つくります!
new いいづかライフ

飯塚市議会議員 どうそ 道祖 満

e-mail:m.douso@fmwu.or.jp

平成18年3月26日 新「飯塚市」誕生

皆様、お元気ですか。

平成18年3月26日新「飯塚市」が、誕生いたしました。

福岡市、北九州市、の政令都市を除いて福岡県で久留米市の次に人口が多い13万3千人の新「飯塚市」が誕生いたしました。

飯塚市・山田市・嘉穂郡8町の合併協議に参加して20万都市を目指してきましたが、桂川町の離脱からこの構想が壊れたことは残念でしたが、今回、ここに飯塚市・穂波町・筑穂町・庄内町・穎田町の合併となり福岡県の中央に位置する都市として今後地域の発展に取り組める環境が整ったことに期待を膨らませています。

今回は、合併前の飯塚市の最後の市議会が2月21日から3月8日まで開催された報告と、新市になって初めて86名の議員で4月6日から4月10日まで開催された臨時市議会の報告を中心に議員活動報告をさせていただきます。



合併前の最後の市議会が開催されました。

2月21日より3月8日まで合併前の市議会が開催されました。

今回の市議会では、新市が3月26日に発足し4月23日に新市の市長が選出され6月議会で新市の市長の施政方針に基づく予算が提案されますので、それまでは暫定予算で対応することと、懸案であり

2006年(平成18年)3月9日(木曜日)

ました鯉田柳町地区の市所有地と鯉田畝割地区の三菱マテリアル株所有

地の交換に関する財産の交換について、鯉田松本公営住宅建設工事の工事請負契約の締結について(1, 2工区)、飯塚市・穂波町・筑穂町・庄内町・鯉田町合併協議会の廃止について等の13議案、請願4件、報告事項5件教職員の定数改善計画の実施を求める意見書の提出についての議員提出議案1件が審議されました。

議案 審議 衆議 議員

飯塚市議会は8日、3月定例会の最終本会議を開き、同市と穂波、筑穂、庄内、鯉田町による合併協議会の廃止議案など13議案を可決して閉会した。

飯塚市議会
最後の定例会
13議案を可決

め、現在の市としては最後の定例会。新市の議会は議員の在任特例を適用することから、岡部透議長は「これからの2年間、八十数人の市議会として運営される。難問も出てくるだろうが、円滑な議会運営を切望したい」と呼びかけた。

25日に失職する江頭貞元市長は「市役所に入ってから45年あまり歩んできたが、炭鉱の閉山で疲弊した市が立ち直り、発展していく姿を見続けた者として、感慨ひとしお。合併がさらなる発展の一歩となるよう協力をお願いしたい」と退任のあいさつをした。

今後の文化行政について

3月26日の合併に伴い、平成14年12月に制定された「飯塚市文化振興基本条例」が、3月25日に失効することになります。

飯塚市文化振興審議会では、3月22日に審議会を開催し、新市の今後の文化行政について議論を重ね、新「飯塚市」の文化行政の推進にあたっては、新市建設計画を基とした「豊かな心を磨き、未来を開く人権尊重のまちづくり」を基本方針とする施策の推進を図ると共に、新「飯塚市」の誕生後は新市建設計画を基にして、様々な施策が推進されることと思うが、中でも重要な施策の一つである「文化振興」を総合的に推進するための基本条例が必要であるとの考えで、合併前の飯塚市文化振興条例を基として基本条例の早期制定を新市の市長に引き継ぐことを3月24日に江頭市長に申し入れ致しました。

(平成17年7月1日から平成18年3月25日まで、飯塚市文化振興審議会委員に任命され、文化振興に関し意見を有する委員・公募した市民委員のみなさんと飯塚市の文化行政について審議致しました。)

国際交流への取り組み一歩前進

平成18年新春の議会活動報告で報告致していました、国際交流促進を目的とした「飯塚国際交流推進協議会」が、平成18年1月28日に発足いたしました。

この発足式に参加して、立命館アジア太平洋大学仲上副学長の「地域国際化と大学の役割」についての記念講演が行われましたので、大分県別府市にあるこの大学の地域との交流について興味深く聴かせて頂きました。

その後、九州工業大学情報工学部の留学生を交えたパネルディスカッションが開催され、その中で留学生が飯塚市で生活する上で住居の確保が大変との経験談を述べていました。

(住宅の確保については、相談が有っていましたので、市に対して国際交流の立場から対応策について取り組むように要望していました。

その結果、市と県が話し合い今年の6月前後に相田地区の県営住宅の建て替えに伴い取り崩す予定の建物4棟16戸を市が譲り受ける方向で調整を進め、この16戸を留学生の宿舎に提供する考えでいるとの答えを頂いています。)

また、今回の講演を機会に、同僚議員と3月に立命館アジア大学を訪問し中野副学長より留学生が学校や幼稚園に向く「出前国際交流」等、改めてこの大学の地域との結びつきについてお話を聞いてきました。

この大学での留学生の受け入れは英語が出来ることが条件で、大学で日本語を習得させるシステムになっているため、学生は日本語を理解できるため「出前国際交流」を行っても意志の疏通に支障が無いので良い反響が出ているとのことでした。

西日本新聞

2006年(平成18年)1月29日 日曜日

「留学生は地域の宝」

飯塚国際交流協発会記念

立命館アジア太平洋大 副学長が講演

国際化に対応した地域づくりに取り組む飯塚国際交流推進協議会(縄田修会長の発会記念講演会が二十八日、飯塚市で

パネルディスカッションでは、九州工業大情報

あり、立命館アジア太平洋大(大分県別府市)の仲上健一副学長が「地域国際化と大学の役割」と題して講演。留学生や市民団体の代表らが地域の国際交流の課題や方策に

ついて語り合った。写真。仲上副学長は、学生四千四百人のうち千八百人が留学生である同大の現状について報告。自治体と協定を結び、学生が地域行事に参加したり、小学校の英語教育に協力したりして、留学生が地域に溶け込んで交流する様子を映像で紹介。参加者の関心を集めていた。

また、留学生の親たちが経営する企業と日本企業の連携を橋渡しするなどの役目になる」と語った。

どの取り組みも紹介。仲上副学長は「学生を『宝』と位置付けて、地域づくりにいかすべきだ」と呼びかけた。

日本企業は、留学生を求めているのにチャンスが少ない。交流の場や情報を提供していくのが協議会

は日本人との交流を求め、住みやすくなる」などと指摘。縄田会長は「留学生

は日本人との交流を求め、住みやすくなる」などと指摘。縄田会長は「留学生

は日本人との交流を求め、住みやすくなる」などと指摘。縄田会長は「留学生

は日本人との交流を求め、住みやすくなる」などと指摘。縄田会長は「留学生

は日本人との交流を求め、住みやすくなる」などと指摘。縄田会長は「留学生

は日本人との交流を求め、住みやすくなる」などと指摘。縄田会長は「留学生

は日本人との交流を求め、住みやすくなる」などと指摘。縄田会長は「留学生

新「飯塚市」全議員へ議会説明会開催

3月26日の新「飯塚市」発足に先立ち、3月23日に1市4町の全議員が改修された議場に集まり説明会が開催されました。

説明会では、出席議員の紹介、3月27日までに6名以上の議員で構成する会派を届け出ること、駐車場利用予定者の利用届けの提出について、臨時議会の開催日程等の説明がありました。

わたしは、民主党に所属していますが、今回は従来の飯塚市議会議員7名で会派を結成しました。

新「飯塚市」臨時市議会開催

新「飯塚市」の初めての議会となる臨時市議会が、4月6日から10日まで開催されました。

初市議会は、初の議長が選出されるまで、全議員の中で最高齢議員が仮議長を務めることで開催され、まず、部次長以上の市の職員紹介が行われ、続いて、新市議会の会議規則案・投票用紙規程案の準用による会議の進行が行われ、初の議長の選挙が実施されました。

その結果、出席議員86名中46名の支持を受けた旧飯塚市の原田議員が議長に就任しました。

続いて、副議長には旧庄内町の嶋田議員が選出されました。

その後、休憩に入り各会派の代表者会議が開催され、本会議場の議席、各会派の議員控え室の割り振りの調整が行われ、それを受けて本会議が開催され議席の指定が行われ、わたしは、80番の議席に決まりました。

議席の決定後、飯塚市議会会議規則、飯塚市議会委員会条例、飯塚市議会傍聴規則、飯塚市議会事務局設置条例の4件が議員提出議案として審議され可決後、再び休憩となりこの間に代表者会議が開催され、各会派の議会運営委員会委員の選出、6常任委員会委員の選出について調整が行われ、本会議が再開され各委員会委員の選出が確定されました。

わたしは、合併に伴う2年間の市議会議員在任期間は15名で構成される総務委員会に所属することになりました。

また、総務委員会が開催され委員の互選により、総務委員会の委員長に就任することになりました。

今回の臨時市議会では、新「飯塚市」の市長が4月23日に決まるまで不在のため

江頭市長職務執行者より提出議案の提案理由説明が行われました。

議案については、飯塚市役所の位置を定める条例ほか221件の条例、飯塚市指定金融機関の指定、小竹町の住民の飯塚市畜場の利用に関する協議、平成18年度飯塚市一般会計暫定予算、その他各会計暫定予算等の先決処分の承認について33議案が審議され可決されました。

また、平成18年3月26日から3月31日までの平成17年度各会計の暫定予算の調製について等の報告議案18件、飯塚地区消防組合議会議員の選挙、飯塚市・桂川町衛生施設組合議会議員の選挙、ふくおか県央環境施設組合議会議員の選挙、飯塚市広域市町村圏事務組合議会議員の選出について、農業委員会委員の推薦について、議会選出各種委員会委員等の選出について、審議され可決されました。

わたしは、議会選出各種委員会の中で、都市計画審議会委員、飯塚地区防犯協会理事に就任することになりました。

2006年(平成18年)4月7日 金曜日

平成17年度飯塚市一般会計暫定予算の調製についての議案審議において、「旧筑穂町が独自に筑豊労災病院の後利用のため福岡大学病院誘致の基金5千万円を合併前に積み立てていたが、この基金はどうなったのか。」との質問があり、これに対しては、「新市に引き継いだ基金は、1市4町の合併協議で合意したもので、この福岡大学病院誘致の基金については合意されていないため、3月25日時点でこの基金の名目は無くなり5千万円については、諸収入として受け入れている。」との答弁がありました。

年月	日	場所	内容
4月	7日	飯塚市役所	旧飯塚市など1市4町の合併で先月発足した新しい飯塚市の臨時市議会が6日開会し、久留米市(94人)に次ぐ県内第2のマンモス市議会(86人)が本格的に始動した。写真。初代の議長に原田博二氏(69)が選出された。副議長に嶋田正志氏(51)が選出された。会期は10日まで。

飯塚マンモス市議会始動 初代議長に原田氏選ぶ

新しい飯塚市議会では、合併特例法に基づいた在任特例の適用で、旧市町議会の議員が、そのまま新市議となった。議長選は原田氏が46票、吉田義之氏(59)が33票、同6回、竹柏会が33票、榎井莞爾氏(66)が旧穂波町、同3回、共産党が6票、原田氏は過去に旧市議長を2期8年経験。議会後に「円滑な議会運営を心がけたい」と語った。

この日は、議員提案による新議会の規則議案などを可決。各委員会の構成についても協議した。旧市議会(合併時24人)から引き継いだ議場には、約50脚の会議用机が運び込まれ、旧市議会の約3・6倍の人数が肩を並べた。ワイヤレスマイクを手にした市議会事務局職員が狭い通路を歩き、発言する議員に手渡すなど、旧来とは違う議場風景が見られた。

新「飯塚市」の市議会の議員数は、3月26日の発足時点では87名でしたが、4月6日の市議会では3月31日付で議員辞職願が出ていました江口徹議員の辞職を許可、また、4月6日付で議員辞職願を出した阿部博議員の辞職が4月10日の市議会ですべて許可されたので、今後は85名で市議会が運営されることになりました。

新「飯塚市」市議会について

新市になり市議会の運営が、これまでと違うところが何点かあります。

大きな点では、これまで4常任委員会が、6常任委員会になったことです。

また、各常任委員会がこれまでは6から7人で構成されていたものが、14人から15人で構成され、委員会そのものが小さな自治体の議会の議員数と変わらないことです。

わたしは、委員会での各議員の質疑がこれまで以上に広く活発に行われることになり議案等の審議に多くの時間が必要になってくるだろうと思っています。

各常任委員会の所管事務は次の通りです。

◎総務委員会15人

収入役の職務に権限に関する事項
 企画調整部に関する事項
 総務部に関する事項
 財務部に関する事項
 選挙管理委員会に関する事項
 監査委員に関する事項
 公平委員会に関する事項
 他の委員会に属しない事項

◎産業経済委員会15人

経済部に関する事項
 公営競技事業部に関する事項
 農業委員会に関する事項

◎厚生委員会14人

児童社会福祉部に関する事項
 保健福祉部に関する事項
 市立病院に関する事項

◎文教委員会14人

教育委員会に関する事項

◎市民環境委員会14人

市民環境部に関する事項

◎建設委員会15人

建設部に関する事項
 都市整備部に関する事項
 上下水道局に関する事項

本会議でこれまでと違う点は、代表質問、一般質問の質問時間がそれぞれこれまでより15分間、10分間減りそれぞれ30分間、20分間となりました。

代表質問は、市長の施政方針に対して議員6人以上で構成される交渉会派を代表して行うことが出来ます。(現在13の交渉会派が来ています。)

一般質問は、毎定例市議会中に交渉会派の3人につき1人が出来ることとなり、3人までとなっています。

従って、効率の良い質問をするには、課題を絞って質問の主旨を的確に伝える事が必要になって来ると思います。

観光振興の取り組みに期待

飯塚市では、年々雑祭りの取り組みが盛んになってきていますので、毎年見学するのが楽しみに成ってきています。

国土交通省が「まちづくり交付金1億2500万円」を、伊藤伝右衛門邸の保存事業に本年度交付することが決まりましたので、この建物の修復に取り掛かり来年の4月には一般公開をする予定です。

また、周辺の道路を石畳にすることや駐車場の整備も計画されていますので完成が楽しみです。

今後は合併により旧1市4町の観光資源を有効的に結び、多くの人たちが飯塚市を訪れてくれることを期待しています。

各地から観光振興の一環として雑祭りに取り組んでいる様子が伝わってきますので、大分県の日田市、杵築市、竹田市の雑祭りの様子を見てきました。(杵築市の武家屋敷にて)



各地とも古い町並みが残っており落ち着いた街のたたずまいで、町並みそのものが観光資源ですが、その中で雑人形が自然と街にとけ込んでいるような感じでした。

また、各地とも休日でもないのに街の中を散策する人や、お土産を買い求める人を多く見かけました。

竹田市は、社会変化にともない人口が減少し、商店街では衰退とともに空き店舗の



数も増加し活力を失うこととなり、

一方、周辺の農村地域は農林業不振と、高齢化、後継者不足等厳しい状況にあったが、農林業、商業、観光の三位一体となった地域まるごと博物館構想の観光振興計画を

策定し観光の在り方を「歩いて・見て・体験できる」ツーリズムに転換して

来ると共に、厄介者で有った竹を有効活用す

る取り組みを行ってきた結果、平成15年度は、

110万人の観光客が訪れたとのことでした。

インドとの交流へJETRO支援

昨年の4月末から約1週間インドを訪問して、インド企業の飯塚市進出の可能性について調査を致しました。(この件については既に報告させていただいています。)

その後、昨年の5月には、インド国際情報技術大学院の教授が飯塚市を訪れました。

また、8月には、インド・ケララ州より州政府主要産業長官、海外技術者協会日本・ケララ州総裁等の5人の方々が飯塚市を訪れました。

このような交流を続けながら、インド企業の飯塚市進出の可能性への努力を行っています。(わたしも、インド訪問の際に知り合った方とメールのやり取りを行っています。)

市では、このような動きを受けて、このインドとの交流を更に続けるため、JETRO(日本貿易振興機構)に補助金を申請していましたが、これが3月15日採択されました。

今回JETROでは、インドとの事業支援には横浜市、福岡市と飯塚市を採択したとのことです。

また、九州では3件の事業支援が採択されており、飯塚市以外では福岡市と北九州市となっています。(インド・ケララ州の知人とのメールでは、早速インド・ムンバイのJETROの事務所の方から連絡があったとのことです。)

市としては、この事業支援の採択を受け、改めてインド・ケララ州との交流を企業の招聘等を含め深めて行く考えであるとのことです。

飯塚市は、合併しても福岡市などの政令都市に比べ人口も予算規模も遙かに少ない自治体では有りますが、今回の採択の結果を見て政令都市に肩を並べて頑張っていることを嬉しく思います。

西日本新聞 2006年(平成18年)3月15日 水曜日

産業交流九州3件採択

新年度JETROの支援事業

福岡市—インドのITなど

計二十件の事業を採択したと発表した。

IT事業は、全国の自治体や商工会議所などによる海外の特定地域との産業交流を推進し、新規産業を創出するのが狙い。現地調査などの出張費や訪問団受け入れなど交流に要する費用の七割を上限に支援する。

九州の三件は、すべて福岡県内の事業。福岡市はIT関連の技術集積が著しいインド・タミルナドゥ州、カルナタカ州との交流を通じて、人材交流や企業誘致を目指す。飯塚市もインド・ケララ州コーチン市との間で、大学・企業間の共同研究

も視野にIT分野でのビジネス機会拡大を図る。

北九州市は、前年度採択された英国・北東イングランド地域とのヒト細胞を利用したタンパク質生産技術の共同研究をさらに発展させ、新製品開発など九州の三件を含む

日本貿易振興機構(JETRO)は十四日、日本と海外の地域間の産業交流を支援する二〇〇六年度の「ローカル・トゥローカル(L2L)事業」に、福岡市とインド二州との情報技術(IT)交

流など九州の三件を含む